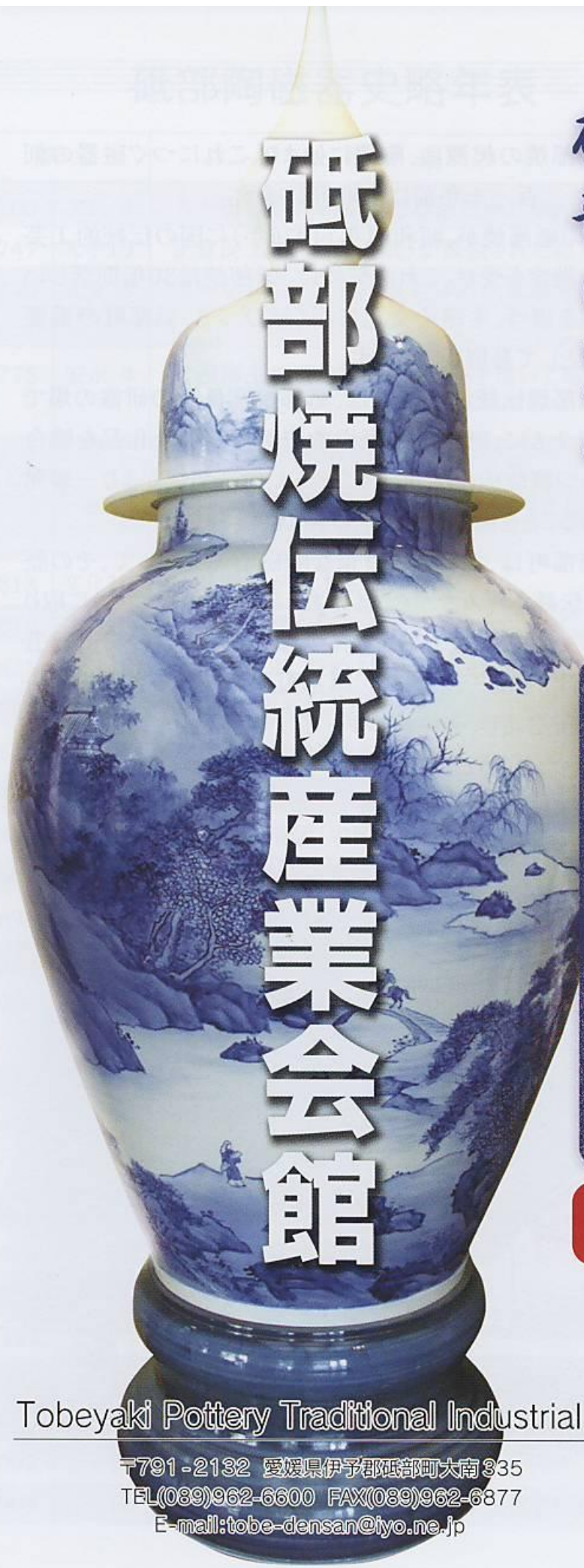


砥部の里めぐり

陶街道五十三次本陣

53

砥部焼伝統産業会館



Tobeyaki Pottery Traditional Industrial Hall

〒791-2132 愛媛県伊予郡砥部町大南335
TEL(089)962-6600 FAX(089)962-6877
E-mail:tobe-densan@iyo.ne.jp

砥部焼の起源は、陶器に始まり、これにつぐ磁器の創業は、二百三十年前にさかのぼります。

この砥部焼が、昭和51年(1976年)に国の伝統的工芸品の指定を受け、これを契機に、砥部焼は30年間著しい進展を遂げ、生活や文化に深く結びつき、砥部町の重要産業として発展しています。

砥部焼伝統産業会館は、砥部焼関係者の研修の場であるとともに、砥部焼の歴史的資料や優れた作品を総合的かつ機能的に紹介することにより、砥部焼がより一層発展することを願って、平成元年に建築されました。

砥部町は、四国でも貴重な陶磁器産地として、その歴史と伝統を育みながら、魅力ある砥部焼の里づくりに取り組んでいます。そして現在「砥部の里めぐり 陶街道五十三次」とネーミングして、砥部町に点在する名所旧跡を53箇所選定し、そのポイントを巡って、砥部町の良さを味わっていただこうと「スタンプラリー」を推進しています。当館はその本陣となっています。



展示室のご案内

🍷 生命の碧い星



当館のシンボルである、この地球儀は、「生命の碧い星」と呼ばれ、平成7年、国連創設50周年にあたる年に、「世界平和」と「地球環境保護」を祈念して創作され、スイスのジュネーブにある国連欧州本部に寄贈した地球儀の姉妹品です。

外国人の来館者には、この地球儀上の出身国にシールを貼ってもらっています。

(高さ160cm、直径105cm、重さ300キロ、磁器としては、世界最大級)

🍷 歴史的作品



時代の特徴を現わし、技術等の優れた作品で、陶器時代の作品や、華やかな錦絵を描いた砥部焼の名品等を展示しています。

🍶 現代的しつらい



現代的な趣の中で
砥部焼を紹介してい
ます。伝統を守りなが
らも、女性や若い世
代の陶工たちの個性
あふれる作品です。

🍶 陶石、轆轤、道具



砥部焼のできるまでを説明したパネルや、蹴り轆轤、へら
など古い道具を展示しています。

🍶 2階 窯元紹介コーナー・企画展示室



窯元の優れた手作りの作品を展示販売しています。また、
個展やグループ展などの企画展を開催しています。

砥部陶磁器史略年表

年		事項
700	文武 4	大下田(原町)にて須恵器が焼かれる。
747	天平19	正倉院文書に「伊予砥」が課徴された記載あり。
1740	元文 5	大洲秘録に砥部焼の名称があり、陶器が焼かれていた。
1775	安永 4	大洲藩主加藤泰侯が、砥石屑を用いて磁器創業を命じる。
1777	6	杉野丈助が磁器の焼成に成功する。 大洲藩の経営であった上原窯を門田金治が譲り受ける。
1813	文化10	向井源治が五本松に窯を開く。
1818	文政元	向井源治が川登陶石を発見する。
1825	8	亀屋庫蔵が、肥前より錦絵の技法を伝える。
1857	安政 4	唐津役所(新谷)、瀬戸物役所(大洲)が設置される。
1875	明治 8	万年陶石が発見される。
1878	11	五松齊が肥前より陶工を招き、型絵染付が伝わる。
1885	18	砥部焼の清国(中国)への輸出が始まる。
1888	21	下浮穴・伊予両郡の陶磁器同業組合が設立される。
1890	23	愛山窯で淡黄磁を焼き始める。
1893	26	シカゴ世界博で淡黄磁が入賞する。
1906	39	神戸の貿易商・池田貫兵衛が砥部焼の直輸出を始める。
1915	大正 4	村立砥部工業徒弟学校が設立される。
1953	昭和28	柳宗悦、バーナード・リーチ、浜田庄司が来町し、砥部焼の指導をする。
1963	38	県立窯業試験場が五本松に移転される。
1976	51	砥部焼が国の伝統的工芸品の指定を受ける。
1984	59	砥部焼まつり始まる。
1989	平成元	砥部焼伝統産業会館開館
1995	7	砥部焼地球儀「生命の碧い星」をジュネーブの国連欧州本部に寄贈する。
2002	14	砥部焼陶芸塾を開講する。
2005	17	砥部焼が県指定無形文化財に指定される。

